

公益社団法人 新潟法人会

会報

NIIGATA HOHJINKAI KAIHOH

2019
vol.141

令和元年10月31日



紅葉の中 木の実を啄むメジロ

法人会は「企業の発展を支援し、地域の振興に寄与する経営者の団体」!

会員増強運動実施中

会員の皆様には、是非、1社につき新規会員1社獲得を目標に
あなたのお仲間企業を会員に!

消費税期限内納付
法人会 一声運動

新潟市中央区西堀通
3番町258番地24
にいがた法人会館
電話 (223)-1242
FAX (225)-5699

こんにちば新署長

新潟法人会の皆さん こんにちば！

新潟税務署長 塚本 真一 氏



略歴

塚本 真一（つかもと しんいち）
長野県出身

平成17年7月	関東信越国税局 課税第一部 個人課税課 課長補佐
平成20年7月	新潟税務署 副署長
平成22年7月	国税庁 監督評価官室 監督評価官
平成24年7月	関東信越国税局 課税第一部 統括国税美査官(国際電子商取引担当) 統括美査官
平成26年7月	新発田税務署長
平成27年7月	関東信越国税局 課税第一部 資料調査第一課 課長
平成28年7月	関東信越国税局 課税第一部 個人課税課 課長
平成29年7月	関東信越国税局 課税第一部 課税総括課 課長
平成30年7月	関東信越国税局 課税第一部 次長
令和元年7月	新潟税務署長

—— 新しく新潟税務署長に就任されました塚本真一署長にお話を伺います。よろしくお願ひ致します。

署長 こちらこそ、よろしくお願ひいたします。

まずは、木口会長をはじめ、新潟法人会の役員並びに会員の皆様には、日頃から法人会活動を通じ、税務行政全般に対しまして深いご理解と多大なるご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

—— 塚本署長はどちらのご出身ですか。また、これまでに新潟勤務の経歴はございますか。

署長 私は、長野県長野市の出身です。

新潟県の勤務は今回で3回目であり、新潟税務署は10年ほど前に副署長として2年間勤務させていただきました。そのほか、5年前に新発田税務署で1年間の勤務があります。

—— 新潟の印象はいかがでしょう。

署長 新潟市は、古くから日本海海運の要港として栄えた歴史を受

け継ぎ、各種インフラが整った日本海側の中心都市であると思ひます。

個人的には、長野県の出身でありながら、長野県の勤務がないという経歴の中、新潟税務署で2度も勤務させていただけることは何か縁を感じるものがあります。

また、新潟は人の温かみを感じられる所という印象があります。加えて、気持ちに余裕が持てることもあり、食べ物が大変おいしく、つつい食べ過ぎ、過去の新潟生活では2回とも体重が増えてしまいました。

—— 塚本署長のご趣味や好きな言葉をお聞かせください。

署長 特に、これといった趣味は持ち合わせておりませんが、ジャンルを問わずスポーツ観戦が好きです。プレイヤーとしてはうまく対応できませんが、観戦することにより自分も同調できることが楽しく、特に、日の丸を背負った戦いは熱いものを感じます。

好きな言葉は「和をもって貴しとなす」で、聖徳太子が官僚の模

範として示したことで聞き心がけておりますが、自分ひとりでは解決できないことが山積する現状に照らし大切なことであると思っております。

—— 税務署での勤務の中で特に思うことがありましたら、お聞かせください。

署長 税務職員として目指すべき方向は「適正かつ公平な税務行政の実現」であると考えます。納税者の皆様が適正な納税義務を果た



前列 塚本真一署長、後列 左より飯田雅俊統括国税調査官、岩淵哲男副署長、伊田篤人国税調査官

すため、分かりやすく利便性を意識した対応に努めるとともに、大多数の誠実な納税者の代表として不誠実な納税者に対しては適正な調査・徴収を実施して参りたいと考えております。

—— 新潟税務署の方々には、日頃からいろいろとご協力いただいております。法人会に対する要望事項等がございましたら、お聞かせください。

署長 新潟法人会におかれましては、老人福祉施設へのタオルの寄贈や献血活動など地域に密着した社会貢献活動に取り組むとともに、税に関する各種研修会や租税教育活動など税知識の普及や納税意識の高揚を図るための啓蒙活動を積極的に実施していただいております。

このような皆様の活動は、地域社会の健全な発展に大いに貢献するものと、深く敬意を表する次第であり、できる限りの協力をさせていただきます。と考えております。

新潟法人会の皆様には、引き続き

き税務行政の良き理解者として、ご支援・ご協力を賜りますようお願いいたします。

—— e-Taxの更なる普及、10月の消費税率の再引上げ等、いろいろと変革の時期ですが、税務署での現状はいかがでしょうか。

署長 お蔭様で、e-Taxの利用件数は着実に増加しており、平成30年度は全国で前年度より約84万件増加し約2,556万件となっております。

平成30年度は所得税のe-Tax利用手続の簡便化やスマホ申告の導入によりe-Taxの利便性が格段に向上いたしました。今後は、スマホの利用範囲が大きく拡大されるとともに法人の電子申告が義務化となるなど、e-Taxに関する制度・利用環境が変わることから、必要な対応を行っていくこととしております。

いずれにしましても、納税者の皆様の更なる利便性の向上と行政事務の効率化に向け、e-Taxの普及・定着の周知・広報を実施して参ります。

また、10月より消費税率の引き上げと軽減税率制度が実施されました。特に、軽減税率制度は新たに導入された制度であることから、その定着に向け、周知・広報はもとより納税者の皆様からの問い合わせにもしっかりと対応できるよう取り組んでいくことが重要と考えております。

新潟法人会におかれましては、会員の皆様が制度を十分に理解していただけますよう、引き続き、ご支援・ご協力をお願いいたします。

—— 最後に、新署長としての抱負をお聞かせください。

署長 法人会をはじめとする関係民間団体の皆様とは車の両輪のような良きパートナーとして一層の連携・協調を図りながら、「納税者の自発的な納税義務の履行を適正かつ円滑に実現する」という課せられた国税庁の使命を果たしていきたいと考えております。

—— 本日は、大変ありがとうございました。

シリーズ 人 にいがた発見

このシリーズは新潟で活躍されている方々をご紹介します。

「妖怪は文化だ」

新潟妖怪研究所

所長 高橋

郁丸 さん
ふみ まる



プロフィール

1961年生まれ、新潟市中央区出身。短大で民俗学を学び、良寛ら地元ゆかりの偉人、伝説を取り上げる漫画家として活動。2010年に県内ゆかりの妖怪について紹介する「新潟の妖怪」を出版し、12年に「新潟妖怪研究所」を設立し所長を務める。他にも新潟県民俗学会理事、三条市文化財保護審議委員、新潟市里潟研究ネットワーク会議アドバイザー、NHKマイあさラジオ新潟県レポーター等で活躍中。

—— 本日は二度目のご登場になります。新潟妖怪研究所長の高橋郁丸さんにおいていただきました。

よろしくお願ひいたします。

—— 十二年ぶりですね。今回は「妖怪文化」第二号が刊行されたとお聞きしましたので妖怪研究所のお話を中心にお伺いしたいと考えています。今、高橋さんは所長の職を？

はい。長く会長を務めていただいた高橋道映さんが引退され、現在はNAMARAの江口さんが会長代行を、私が所長を務めています。事務局は考古書店内にごさいます。

元々この妖怪研究所というのも、私が二〇一〇年に「新潟の妖怪」という本を考古堂さんから出版した際



作者肩書きが新潟県民俗学会理事ではつまらない。何か面白い肩書きはないか？と相談され「新潟妖怪研究所」という名称を考え出したのです。

—— 名前だけの研究所が現在の様な形になった経緯は？

この本の出版パーティーですね。この本は新潟日報さんで連載したものを考古堂さんで本にしたのです。ですからパーティーには考古堂、新潟日報社両社から多くの方にご出席いただきました。そこで「こんな楽しい集まりなら毎年やりたいね」と妖怪研究所のメンバーになった方々もいらつしやいます。

その後、本当の妖怪好きな方、妖怪研究所の名前に惹かれて入会された方も多くいらつしやった事から、ちゃんと研究、活動してみようと、会報「妖怪文化」の発行や「妖怪ツアー」などを行ってきました。

—— 妖怪ツアー？

はい。既に三回程実施しています。県内で妖怪の伝説がある場所を選んで訪ねて行く日帰りバスツアーといった企画ですね。

一回目は弥彦周辺を回りました。二回目は石川雲蝶さんの彫刻を中心に回りました。私が雲蝶さんの研究をしていた事もありましたし、雲蝶さんが彫った妖怪の彫刻も結構ある

んです。昨年、三回目のツアーは村松の慈光寺、阿賀町の旦飯野神社等を回ってきました。慈光寺には妖怪大蛇の伝説が残っておりまして慈光寺から追い出された大蛇の一匹は新潟市の白山神社に逃げて来ているのですよ。白山神社の裏に蛇松明神があります。ここはその大蛇を祀った神社だといわれています。

—— そもそも妖怪に強い興味を抱く様になったのはいつ頃からですか。

大学で民俗学を学ぶ中でたくさん
の伝説や昔話と出会ってきました。その話の中にはちょっと怖い話や妖怪の出てくる伝説等もありました。卒業して新潟に戻り新潟県民俗学会に入り民俗の勉強を続けていたのが一般の方々に民俗学を分かりやすく



説明するためには伝説が良い、その中でも妖怪話やちょっと怖い伝説には特に興味を持って聞いていただけると思
い、妖怪に特化した研究を進め、それからは本当に妖怪、妖怪でした。
——新潟県はそういう妖怪話は多いのでしょうか？

多いですね。でもあまりPRされていないですね。

角川書店で出版されている「怪」という本が年に一回水木しげる先生を中心にした妖怪のイベントをいろいろな県を会場に行っていたのです。十五、六年前、滋賀県の時に参加しました。日本全国から妖怪好きな方々が参加していました。

また、多くの市町村で商工会議所や青年会議所を中心に妖怪の町おこ



しをやっていました。地元の伝説や伝承、ご当地の妖怪にすごく誇りを持って、それをPRして売り出そうと様々な企画、イベント等を行なっているのです。新潟県ではどうだろうと思つた時、誰もやっていなかったのです。とても残念で他県の活動を羨ましく思つたものでした。

これは少し古いデータかもしれませんが、昔話の報告数が最も多いのは新潟県だということです。昔話の報告数が多いという事はそこに登場する妖怪の数も多いのではないかと思われるのです。

—— そうしたキャラクターはたくさんいるのに、あまり知られていないですね。

そうですね。宣伝もされておらず活かされていないという事ですね。新潟県の妖怪の中では「酒呑童子」が一番有名かと思いますがそれも新潟よりもむしろ京都の大江山の話の方が有名ですよ。

—— ちなみに高橋さんが一番好きな妖怪は何ですか？

よく描いているのは「弥三郎婆」でしょうか。弥彦の妖怪です。婆々杉（ばばすぎ）という天然記念物の杉の木に住んでいたと言われてます。えらいお坊さんに諭されて、天女様になるのです。今は妙多羅天女



という名前で弥彦の宝光院というお寺に安置されています。

—— これからの妖怪研究所の目標、方向性について教えてください。

妖怪研究所も、もう七年になりました。妖怪ブームと呼ばれた頃もありましたが、水木しげる先生を始めとする東京を中心としたブームでした。地方ではまだまだ喧伝が不足していますね。私共にお声がかれば普及のためには何でもやりたいと思つています。ご当地新潟には魅力的な妖怪達がたくさんいるのです。もっと細かく、あまり知られていない妖怪を発掘し、スポットライトをあててあげたいと思います。

「妖怪は文化だ」というスローガンの通り、新潟の文化を少しでも多くの方に知っていただければ、これからも頑張っていきたいですね。

—— よく分かりました。本日はありがとうございました。ご活躍を願っております。

新潟探訪 No. 40

— にいがた文化の記憶館 — Vol. 1 近現代の日本文化をリード 本県輩出の偉人を一堂展示

【新潟探訪は 141 号より 5 回に渡り「にいがた文化の記憶館」の特集をお送りいたします。】



5階に「にいがた文化の記憶館」が入っている新潟日報メディアシップ

■施設概要

「見せるところなんて新潟には何にもないですよ」。県外からのお客にこんな答えをする新潟市民は少なくありません。行先を會津八一記念館と伝えたのに、新津記念館でタクシーを降ろされた客もいます。

確かに新潟市には金沢市や仙台市のような歴史的文化財はありません。しかし幕末からの近現代にかけて日本の文化をリードした偉大な文化人は非常に多く輩出しています。県内には文化人としての個人顕彰館は北から吉田東伍、落谷虹児、會津八一、坂口安吾、巻菱湖、遠藤実、諸橋轍次、岩田正巳、西脇順三郎、宮柊二、良寛、池田恒雄、富岡惣一郎、増村朴斎、中村十作、前島密、小林古径、相馬御風などの記念館・記念室があります。このほか歴史民俗資料館などに併設された人物コーナーもたくさんあります。

しかし、新潟県は広いです。県民も旅行者も見えて回るには1週間以上は要するでしょう。これを一堂に会して見学者が一覧でき、各館のPRを兼ねた情報館の機能を担うために当館は7年前、県民の寄付をいただき開設されました。毎年4〜5回の企画展示を各館や顕彰団体のご協力を得て開催しております。本年は新潟県が国民



地図「日本の文化をになった新潟人」

文化祭の開催県となりました。そこで、「越後は医学界の宝庫」（澤田敬義博士・旧新潟医科大学学長）とされるように、日本の医学界をリードした偉大な県人医学者を一堂に紹介し、彼らがいたからこそ、現代の日本人は病気を恐れず生きてゆけるのだという認識を県民に持つていただこうと、併せて、若い世代の指針にしてみらえるように、次のような企画をたてました。

■企画展示「病とたたかう―近代医学と新潟県人―」

現在開催中の企画展示「病とたたかう―近代医学と新潟県人―」では、県人医学者11人の業績を一堂

に紹介しています。先日天皇皇后両陛下が本展を視察され、新潟県人が西洋医学の受容に主導的な役割を果たしてきたことに感心しておられました。本稿では、企画展示で取り上げている医学者の業績を紹介します。

桑田立斎（新発田）は、幕末に天然痘撲滅のため、牛痘接種を推進した種痘医です。幕府の命令で弟子とともに蝦夷地（北海道）へ渡り、アイヌ1万3千人に集団接種した写真図《蝦夷人種痘之図》（個人蔵）が残っています。種痘の効果が認識されていない幕末の時代、偏見や迷信とたたかいながら、生涯で7万人に種痘を施しました。



桑田立斎らがアイヌに集団接種する様子を描いた《蝦夷人種痘之図》（個人蔵）

司馬凌海（佐渡）は、オランダ人医師の講義を同時通訳した語学の天才医師です。「蛋白（たんぱく）質」「窒素」「十二指腸」などの言葉をドイツ語から翻案しました。また、日本で最初のドイツ語辞典『和訳独逸辞典』を編纂しました。司馬遼太郎の時代小説『胡蝶の夢』では、主要な登場人物のひとつとして描かれています。

また、池田謙齋（長岡）は明治天皇の侍医を務めた日本最初の医学博士・東京大学医学部総理です。本展では、池田謙齋が明治天皇から下賜された御衣（長岡市蔵）を展示しています。

長谷川泰（長岡）は、日本初の私立医学校・済生学舎（現日本医科大学）を創設し、官立の学校では除外された女性の入学を認めました。東京女医学校（現東京女子

医科大学）を創設した女医の吉岡弥生がここで学び、また野口英世も済生学舎から巣立ちました。

石黒忠恵（小千谷）は、軍医総監、医務局長を務め、軍医制度の整備に尽力しました。部下には森鷗外がいました。鷗外の小説『舞姫』に登場する上司役のモデルとされています。

池田謙齋の甥・入沢達吉は、大正天皇の侍医頭を務め、東京大学医学部に入沢内科を創始、日本の内科学確立に貢献しました。ほかにも、受胎調節法の学説で世界に衝撃を与えた荻野久作（新潟）、脳神経解剖学の権威で京都大学総長を務めた平沢興（新潟）らがいます。

また県内に目を向けると、新潟病院長や医学校の校長を務めた竹山屯が、新潟の医学の基礎を築き



池田謙齋拝領 明治天皇の御衣（長岡市蔵）

ました。竹山は、中央で活躍する石黒忠恵や入沢達吉らの支援を受けて旧制新潟医科大学の設立を推進し、東大医学部から沢田敬義や荻野久作ら優秀な医学者を招き、発展させました。また、漫画家・高橋留美子さんの曾祖父、高橋辰五郎の活躍も見逃せません。辰五郎は産婦人科病院を開業しながら産婆学校を創設し、近代的名称「助産婦」を提唱した人物です。本展のキャッチコピーは、「彼らがいたから、私がいる!？」。私

【展覧会情報】

天皇陛下御即位記念

第34回国民文化祭・にいがた2019

第19回全国障害者芸術文化祭にいがた大会

2019年度にいがた文化の記憶館企画展示

「病とたたかう―近代医学と新潟県人―」

会場…にいがた文化の記憶館

会期…2019年9月10日（火）

～12月1日（日）

休館日…月曜日（祝日の場合は開

館し翌日休館）

開館時間…午前10時～午後6時

入館料…一般500円、学生（高

校生以上）300円、中

学生以下無料

たちが病気に立ち向かっていけるのは、新潟が輩出した偉大な医学者たちが、医学発展の基礎を築いたからとも言えるのではないのでしょうか。本展を通じて、医学者たちの研究と努力が、日本の医療体制の充実を進めたことを知っていただければ幸いです。

次号から、弊館で展示している相関図のテーマ毎に、新潟の文化人を紹介いたします。



にいがた文化の記憶館

〒950-0008

新潟市中央区万代3-1-1

メディアシップ5階

TEL 025-250-7171

FAX 025-250-7040

随想

夕やけこやけ



「元気に100歳」



株式会社オオスギテック
代表取締役
大杉 一文

新元号令和となり心新たの折、米中貿易戦争、最悪の日韓関係などが報道の多くを占める中、6月に新潟、山形地震が発生、9月には台風15号、10月には台風19号による想定をはるかに越えた被害で復旧作業は困難を極め多くの人々が難儀な日常生活を強いられ自身では防ぎ様の無い自然の猛威に心痛みます。

近年、私の年代は統計上平均寿命が100歳に近づいていると言われています。健康寿命も同じであれば嬉しいです。幸い60代最後のバースデーを迎える今日まで病気や怪我による入

院、手術も無く過ごして来ました。

50代中頃迄特定健康診査を受けた事は無かったのですが公私共に親しくしていた友人達が突然病気で亡くなられ深い悲しみが続き早期発見で治療を受けていたらと、悔やむ日々でした。医者嫌いの私でしたが先に旅立った友の教訓から家族や社員の為、何より自分の為、病いのリスクを減らすよう3ヶ月毎に血液、尿、心電図及びエコー検査、更に胃カメラと肺のレントゲン撮影を受診しています。

日常生活においては睡眠・食事・運動を重視。午後10時前に布団に入り5分で眠りにつきます。朝、昼の食事は決まった時間に魚と野菜中心に時間をかけてよく噛むようにして食べます。但し夕食は問題があります。お酒が大好きで酒量が多く年中休肝日はありません。アルコール依存症を心配されるので今年初めて一週間禁酒を実践しました。運動に関しては学生時代から水泳、スキーで鍛え体力には自信があり、

社会人になってからはテニスと登山が加わり、父親となって我家の小さな豆剣士と共に週2回の稽古に参加、ゴルフ回数も増えてきました。カートに乗らず18ホールを歩きプレーするように努めています。更に50代でスノーボードに挑戦し孫にも教えられる位の上達しましたが昨年からジャンプ台等は控えるようにしました。還暦近くに始めたマラソンについては7年前にホノルルフルマラソンに仲間と参加。時間制限がないので完走出来ましたがその後は気力と体力が一致せず今は10キロマラソンを楽しんでいます。笹川流れマラソン、佐渡トキマラソン、ごせん紅葉マラソン、新潟ロードレース、新潟シテイマラソンに参加させてもらっています。変わったところでは長岡丘陵リレーマラソンはチーム10人でフルマラソンの距離をリレーするのですが最後のランナーがゴールに近付くとチーム全員が掛け寄り横一列に手を繋ぎフィニッシュラインを踏み越えるのですがその瞬間は感動です。その後の打上げで飲むビールは最高です。

私は令和の時代を無理のない『かけっこ』を楽しみながらピンピンコロンを目標に過ごしていきたいと思っています。

特別講演会および年末懇親パーティーのご案内

- 日時 令和元年 12月9日(月) 午後2時30分
- 会場 ANAクラウンプラザホテル新潟
新潟市中央区万代5-11-20 ☎025-245-3333
- 参加料 1名 4,500円 (会員以外は5,000円)
- 講師 弁護士 菊地 幸夫氏
テーマ 「ワーク・ライフ・バランスを考える
～仕事も家庭も一生懸命～」



編集後記

この度、広報委員を仰せつかったクシヤ株式会社、榎谷です、何卒宜しくお願いします。さて今回、にいがた発見では県内の興味深い妖怪話の数々、新潟探訪では県人医学者の顕著な業績の紹介があります。私自身初めて聞き感心する話ばかりで恥ずかしく思っています。新潟には県外、国外に発信できる素晴らしいコンテンツがたくさんあると思います。私も宣伝下手の新潟県人の汚名を返上するため、食だけではなく、文化・歴史を学び県外から来た人をおもてなし出来るようがんばります。